

Navigating What's Next: Post-COVID Learning Spaces

来たる時代へ舵を切る：ポスト・コロナ時代の学習環境

本冊子について

この世界的危機を乗り切るために、当社は、世界中の教育機関、先駆的思想リーダーや専門家など当社が抱える幅広いネットワークの知を結集させ、教育や学習指導への影響を徹底的に調査し、その把握に努めています。

本冊子は、「当面の対応」、「短期的対応」、「中長期的対応」の3段階に分けて、教育機関がこの困難な状況を乗り越えるための様々な戦略的ヒントを共有することを目的としています。

日々更新される対策情報は、当社ウェブサイトをご覧ください。

steelcase.com/jp-edu

Post-COVID Learning Spaces

ポスト・コロナ時代の学習環境。 学校や大学などの教育機関は、慎重になりながらも対面授業とオンライン授業を組み合わせながら本格的再開に向けて動き始めています。生徒や学生、教職員、保護者の多くが、感染症対策や行動制限、不確実な将来への不安やストレスを抱え、これまでとは違う生活を余儀なくされています。学校や大学の再開にあたっては、今後の生徒や学生の成長を見据えたスペース構築やテクノロジー導入など包括的かつ慎重な計画と対応が求められます。



来たる時代へ 舵を切る

コロナ渦をきっかけに、多くの教育現場では、新たな教育の仕組みを再考していく動きが加速しています。学校や大学の本格的再開にあたって、生徒や学生、教職員の安心・安全な環境を整備するために、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型学習の検討も始まっています。

学校閉鎖の長期化は、世界中の生徒や学生、教職員にとって、オンライン授業を加速させる絶好の機会となりました。深刻化する学習の遅れにプレッシャーを感じながらも、より柔軟な授業方法を模索し始めています。しかし、未だ多くの人にとって、遠隔教育や学習は、未知の領域です。多くが家庭にインターネット接続環境や通信用デバイスが整備されていないために、オンライン授業が中断したりという課題も残されています。

ポスト・コロナの世界では、教育現場がどう変化するかは未だ不確定です。短期的にも、学校や大学が本格的に再開される時期も、次年度以降の指導要領も不確定です。しかし、長期的視点で言えば、このコロナ渦が今後の教育に対する新たな手法や授業モデルが不可欠であることを実感させたことは間違いのないでしょう。

今後の教育を考える上で、適応力、回復力、創造性、問題解決能力といったワードは、生徒や学生の今後の成長に不可欠なスキルです。生徒や学生には、自らの力で追求する姿勢、そして、教員には、独創性と創造力を駆使しながら学習体験そのものを再構築していくことが求められています。結果として、これからの学習体験は、より生徒・学生主体/主導、個の学習ニーズへの対応へとシフトしていきます。個々のペースで学ぶことは、必ずしも自習だけとは限らず、相互に協調しながらの学習も今後さらに注目を浴びてきます。学習・指導体験を向上させる新たなテクノロジーツールやプラットフォームに対する需要も今後ますます高まるでしょう。

また、今回のような危機的事態や慣れない自宅でのオンライン学習は、生徒や学生の身体面、認知面、情緒面でのウェルビーイングにも大きな影響を与えます。不確実な脅威に対する恐怖や孤立化など様々な問題が要因となって起こるストレスや不安、心的障害はさらに深刻化しています。学校や大学再開の際には、教育関係者は、あらゆる側面から生徒や学生、教員のウェルビーイングを考慮することに注力すべきであり、特に心身両面から「安心・安全」であると感じられる環境はなくてはならないものになります。

私たちは、対面でのコミュニケーションはこれまで以上に重要になるだろうと考えます。教育とは、単に教える、学ぶという行為以上のものです。それは、仲間、友人、コミュニティの中で互いに関わりあいながら学ぶ、アイデアや学問という無形の豊かさから学ぶ、部活や芸術、スポーツといった集団生活や社会を通してさらなる目的を追求することから学ぶなど、生活することそのものが教育とも言えます。それは、構内を歩いていた、友人と会ったり、普通に生活している中でのちょっとした些細な瞬間に培われ、学校や大学の物理的空間といった中で根づきます。好奇心や発見に満ち溢れ、創造性や共同学習を促し、社会情勢の変化にも柔軟に対応できる教育の「場」。その環境の中でこそ生徒、学生や教員は成長しながら自己実現を達成することができます。まさに今が、教育とは何かを改めて問い直し、再考する絶好の機会ともいえるでしょう。

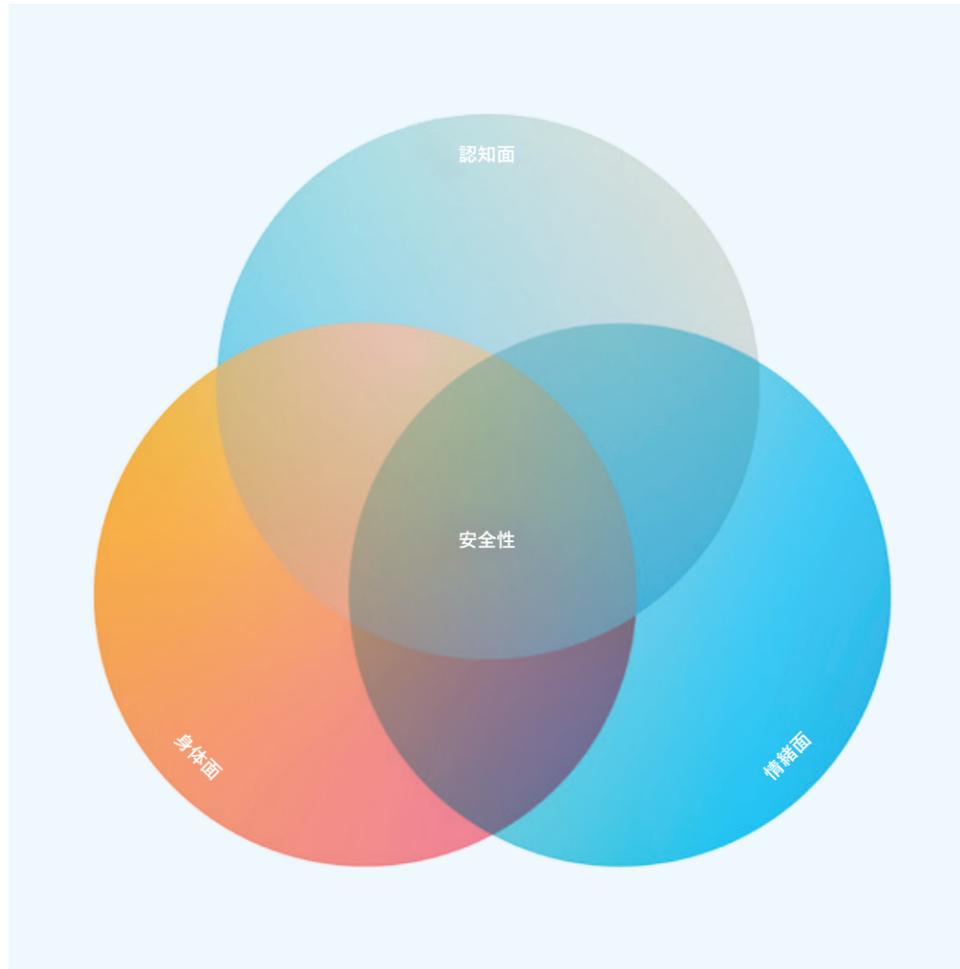
私たちが、来たる時代へ舵を切る際に考慮したこと、それは家具、素材、テクノロジー、計画的レイアウト変更、さらには人間の行動やプロトコルに至るまでより包括的なソリューションをお客様に提供するというものでした。科学的データに根ざした感染症対策をベースに健康管理士と共同で安心・安全な学習環境をつくるためのガイドラインを策定しました。学校や大学の本格的再開にあたって、その緊急対応として当面適用できる実行可能なアイデアと、中長期的な将来を見据えた提案の両方を責任ある方法で展開していきます。まずは、安心・安全な学習環境の構築、そして、コロナ渦がもたらした変化や新たな課題に対して高い適応力で迅速に対応できる体質転換が教育機関にも求められています。

未知なるものへの対策： 安心・安全第一

学校や大学を再開するにあたって最優先されなければならないこと、それは、安心・安全性とウェルビーイングの確保です。そのためには慎重かつ責任ある選択が求められます。

ウェルビーイングは、**身体面、認知面、情緒面**での健康が維持されることが鍵で、その3つの側面の土台にあるのが**安全性**です。教育機関が生徒や学生を支援し、つながるコミュニティとして機能するためのポイントは：

- **身体面**：生徒・学生、教員は、病原体が身体に侵入しないようにすることで、活発かつ健康的、そして、安全に学ぶことができる。
- **認知面**：確信を持って安全だと感じることで指導や学習に集中できる。
- **情緒面**：安心して帰属意識を持てることで学習意欲は増す。生徒・学生を守るために安全な学習環境づくりに注力しているという管理姿勢が安心感につながる。



今日の学習環境が 直面する課題

コロナ以前は、広範囲にわたる学習スタイルの実現に向けて、生徒や学生の自律、共同作業や柔軟性に力を入れた活発かつ能動的な学習を念頭にした学習環境が望まれていました。しかし、現在及びポスト・コロナ時代の学習環境では、対人距離が制限されるため、これらの要素の多くが新たな課題を提起しています。

例えば：

- **再構力**：推進されたアクティブラーニング教室は、より能動的になるために生徒・学生や教員が自ら家具をすばやく再構成できるものである。しかし、多くの場合、対人距離が狭くなりがちである。
- **共有スペース**：図書館や学生センターなどの共有スペースでは、資料やテクノロジー、家具などに高い頻度で接触しながら人同士の交流を促していた。カフェのような交流スペースは、大人数のグループでの集いも念頭に設計されている。高い密集度と共有家具を通じての感染拡大が危惧される。
- **高密度**：教室や講堂など、多くの学習スペースは高密度になりがちで感染拡大の可能性が高い。
- **高い移動性**：携帯デバイスやモバイル電源などによって、学生は自由に移動しながら学習することが可能になり、エネルギーの高いダイナミックな学習環境になった。その反面、感染拡大のリスクが高まった。
- **重点が置かれたウェルビーイング**：キャンパスの中に学生が静かに休憩できるように特別に設置されたスペースは、特に接触率が高く、ウイルス蔓延を緩和する課題を提示している。

これらの特性は、生徒・学生や教員の能力を高め、コミュニケーション力や創造性などのスキルを取得し、学習への意欲を向上させる環境づくりに貢献しました。しかし、多くの教育機関では、安全性を考慮しているものの、**感染の蔓延を緩和したり、予期せぬ健康リスクに迅速に対応できるようにその学習環境は設計されていませんでした**。今後は校内やキャンパスでの急速なウイルス蔓延のリスクを軽減し、再度、学校閉鎖にならないよう予防・拡大防止対策を徹底することが望まれます。

「当面の対応」、 「短期的対応」、そして、 「中・長期的対応」

当社は、主要な教育機関、専門家とグローバルなネットワークで連携しながら、学校や大学の再開を当面、短、中・長期という時間軸で計画することが重要だと考えています。多くの教育機関にとって、新たな波への警戒心を高めながら、生徒・学生や教職員が安心・安全に復帰するための対策を計画的に講じなければなりません。

〔当面の対応〕

学校や大学などの教育機関は、慎重になりながらも対面授業とオンライン学習を組み合わせた本格的再開に向けて動き始めています。当面は、対人距離、飛沫飛散防止用パネルの設置、清掃/衛生対策など、各国政府や世界の健康ガイドラインに準拠した方法で学習環境を変更、改善することが求められます。

〔短期的対応〕

多くの学校や大学が再開される時期。当社の経験と科学的データをもとに学習環境のレイアウト変更の準備にかかります。新たな視点でスペースをレイアウトし直し、安心・安全第一を念頭にした長期的なソリューションとなるように家具や配置を変更します。

〔中・長期的対応〕

科学的裏づけと新たなテクノロジーが新ソリューションを生み出すように、遠い将来を見据えた学習環境には、抜本的な刷新が求められます。従来の学習環境は、密集度とコストによって計画されてきました。しかし、予測不能な来るべき時代の姿は、経済、気候変動、健康面での危機に柔軟に対応できる学習環境です。さらに、安全性に加え、身体的、認知的、情緒的な側面からウェルビーイングを慎重に配慮することも必須です。

〔当面の対応〕と〔短期的対応〕での注力ポイントは：

- 学習環境と収容人数の密集度
- 家具配置の規則性
- パーティションなどで分割

当面の対応

学校や大学の再開には、段階的アプローチを検討することをお勧めします。多くの教育機関では、物理的スペースでの密集度を最小限に抑えるために、毎日/毎週のカリキュラムをずらしながらの対面授業や活動を再開したいと考えています。断続的に起こるだろう感染拡大の波の中で、すでにあるものを改良、変更しながら最大限に感染拡大を予防しなければなりません。

当社は、不可欠なビジネスニーズに応じて早期に安全対策を講じた製造施設やグローバルに事業を展開するお客様から学んだ多くの対策を学習環境にも適応しています。



下記のポイントはその対策の一部です：

- **少人数クラス + ミーティング**
適切な対人距離を確保するために、集会の人数制限、個室等の閉鎖空間の利用人数制限などの情報を投稿を通して学内に広く行き渡らせる。
- **密集度を下げる**
イスや机を取り外し、対人距離を少なくとも2メートル空ける対策をする。教室では、前、左右の席を避けるように家具は互い違いになるようにする。また、体育館や図書室など使用されていない広いスペースを一時的に教室として活用することも検討する。
- **規則性を変える**
間仕切りなしでの対面着席を回避するように机を再構成する。例えば、90度回転させて座る向きを変えるようにするなど。
- **専用席**
可能な場所では、学期を通して、学生に専用のイスと机を提供する。学生はスペースを移動せず一箇所に留まり、教員が場所を移動することを検討する。終日を通しての消毒習慣を徹底させる。
- **間仕切りを活用**
間仕切りや衝立を戦略的に活用することで、動線を確保しながら人の滞留を防ぎ、適切な対人距離を確保できる。
- **共有スペース**
ソファなど対人距離がとりにくい家具は、利用をひとりに限定するか、ソファ席は外すまたは2メートル以上離して再配置する。スペースには消毒セットを設置し、テーブルや照明等は、清掃スタッフに加え、利用前後に利用者自らが清掃できるようにする。
- **ブレンド学習**
対面とオンラインを混在させるブレンド学習の推進は、自宅での学習が増えることになる。新たな課題として、前屈みなどの悪い姿勢、過度なPC操作、目の疲れなどによる体力低下を防ぐために、人間工学に基づく家具や照明等が自宅にも必要不可欠になる。

- **視覚的サインで誘導**
適切な距離を保つために、床にテープを貼るなど視覚的に訴求するサインも有効である。床の矢印で向かう方向（狭い通路は一方通行等）に誘導するなど。
- **清掃・消毒頻度の増加とその見える化**
授業との間や終日を通して清掃や消毒作業の頻度を増やし、日常的な風景として定着させる。手洗いなどの衛生マナーを周知させ、アルコール消毒液をいたるところに設置し、誰でもどこでも利用できるようにする。（P38の安全対策ガイドラインを参照）
- **マスク着用の義務化**
話をする際に放出される粘液などの飛沫到達距離の研究により、マスク着用が感染拡大の重要な予防策となることも証明されている。学校や大学での会話や移動の際のマスク着用を義務化すること。その際にはマスクの正しい着用方法などの手順を提供することも検討しよう（P38安全対策ガイドラインを参照）。

短期的対応

学校や大学の本格的再開に向けて、感染予防策としての適切な対人距離を確保しながら、学習スペースを再構成すること。そのスペースは、病原体であるウイルスがどう伝染し不活化するかという科学的根拠に基づき、高度な柔軟性で今後の度重なる危機にも素早く変更できることが重要です。

その際に考慮すべきポイントは：

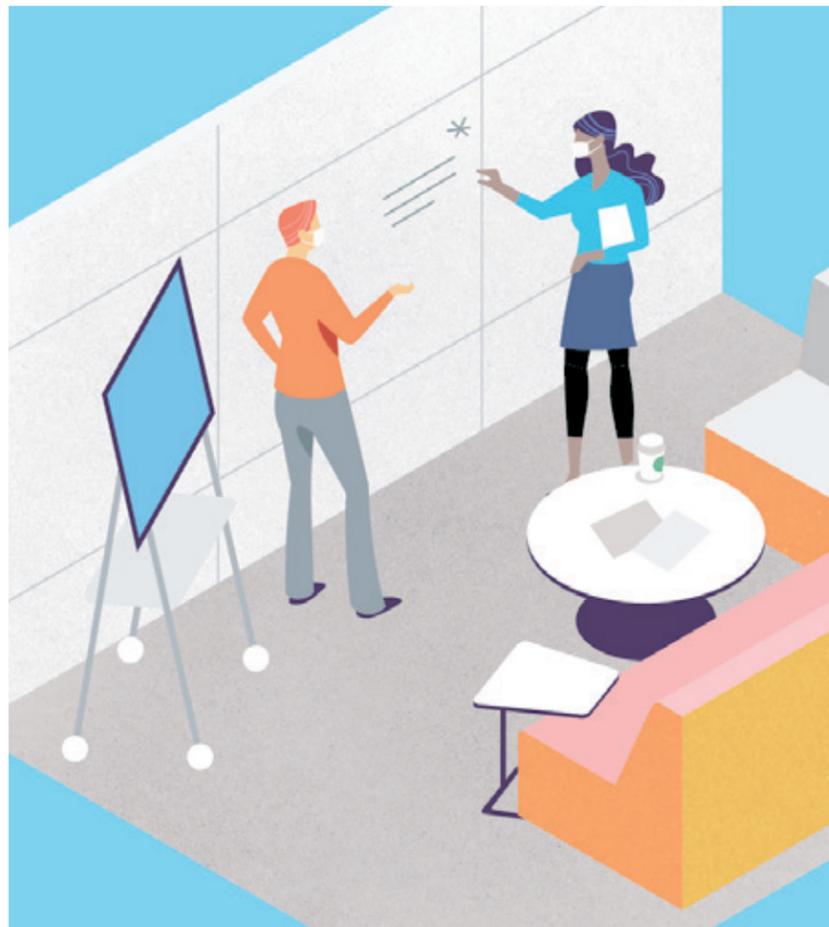
- 消毒を念頭にした設計デザイン**
 クリーニングや洗濯が容易かつ劣化しにくい滑らかな材質や生地を選択する。抗ウイルス、抗菌機能付き什器の追加等も検討する。スペースにセンサーを設置し、スペース利用率や清掃頻度を把握できるようにする。
- 柔軟な可動式家具とモバイル電源を採用**
 移動可能でレイアウト変更が容易な家具を導入する。そうすることで必要に応じて人との適切な対人距離を確保し、スペースの密集度を調整することができる。モバイル電源を活用すると、電源コンセントがないエリアでも学習が可能になる。
- 大型コラボレーションデバイスを検討**
 ブレンド学習が増えるにつれ、生徒・学生や教員がいかに効果的につながるかが肝になる。Microsoft Surface Hubなどの大型コラボレーションデバイスは、ペンや手で画面をタッチするがクリーニングも容易である。ホワイトボードやデジタルツールなどを含む大型コラボレーションツールは、学びの革新には不可欠になる。

● 立ちながらの対話

閉ざされた個室の中で固定された家具に身動きできなくなるのではなく、自然と人との距離を置きながら対話ができる新しいタイプの学習スペースを検討する。Steelcase Roam モバイルスタンドでコラボレーションツールである Microsoft Surface Hub 2S を移動させながら、可動式 Steelcase Flex スクリーンやツールをオープンスペースの中に配置することで従来にはない先進的な学習スペースを創出できる。さらに立ったり動いたりすることで人間の創造性は60%向上することも実証されている。人との適切な対人距離を維持しながらの柔軟な学習環境がこれからのスタンダードになる。

● 接触追跡アプリの検討

ウイルスに感染した場合、スマホで近くにいる人に濃厚接触の可能性を匿名で伝え、検査や自己隔離を勧めるという感染追跡アプリ導入を検討する。



中・長期的対応

今、求められているのは、元の状態に戻るのではなく、順応性を持って逆境に立ち向かい、教育を継続させ、さらに繁栄させることです。そのベースにあるのは学習への意欲とイノベーションといったキーワードです。これらの要素は、生徒・学生や教職員のウェルビーイングをこれまで以上にサポートしながら、多様な指導・学習方法をバランス良く促す「場」によって再度活性化されていきます。それは、将来的にも起こりうる社会的混乱に直面した際にも素早く適応できる「場」でもあります。つまり、高い密集度と効率性だけを重視した従来の学習スペースは終焉し、より柔軟性と流動性の高いスペースへとシフトしなければならないということです。安全性は、身体面、認知面、情緒面にも影響を与えるため、その学習環境では、生徒・学生や教員のウェルビーイングを徹底的にサポートすることが肝心です。誰もが安全だと感じ、心おきなく交流しながら新たな指導・学習方法を楽しめること。それにはテクノロジーを活用した科学的根拠に基づくデータ駆動型ソリューションが求められます。



その例として挙げられるのが：

- 順応性を念頭に設計**
 これからの学習スペースは、もはや永続性ではなく順応性、固定的ではなく流動的になる。社会の危機や変化に合わせて容易にレイアウトが変更、拡張、縮小できることが不可欠になる。
- 新素材の登場**
 経年や消毒の頻度増加によって劣化しない天然/人工素材が新標準になる。
- センサーを活用**
 センサーはスペースの利用率以外にもその行動などで病の兆候を読み取るなど、利用者のさまざまな側面での健康状態を測定できる。
- インクルーシブデザインを採用**
 年齢、能力、健康状態に関係なく、全員が安全に平等に指導、学習できる環境を包括的にデザインする。
- 動画でつながる**
 学校や大学は、ネット上のバーチャルな体験を融合しながら、離れた場所からもシームレスにつながる環境づくりが必須になる。
- 遠隔授業の標準化**
 安全な通学環境とサステナビリティという観点から、すでにブレンド型学習を実践しながら遠隔授業を促進している教育機関もある。この動きはさらに加速し、生徒や学生が自宅からでも健康かつ快適、シームレスに授業を受けられるサポートが必要になってくる。
- コミュニティの構築**
 経済的、社会的不安に加え、生徒や学生の孤立化も問題になっている。学校や大学への帰属意識と目的意識を育む方法を検討しよう。また、積極的にオンラインでつながり雑談する機会も設けよう。

人々が何を感じ、科学的データが何を指し示し、どんなテクノロジーが浮上しているかなどを深く理解していくことで、「未来の学習スペース」のあるべき姿が明らかになります。

Design Considerations + Thought Starters

教育機関のスペース設計における
当社の考え方やそのアプローチ、
プランニング方法は、今後は様変わりします。

設計上の
考慮事項 +
スターター

P14
設計上の
考慮事項

P18
学習・指導
教職員スペース

設計上の考慮事項

密集度・規則性・分割

学校や大学などの教育機関では、リアルでの対話が生徒や学生のベストな学習環境としてなるべく早い時期に生徒・学生や教職員を教育現場へ本格的に戻りたいと考えています。ストレスや孤立化するケースも多く、一刻も早い対応策が望まれています。しかし、対面授業や活動を段階的に再開するためには、安全対策ガイドラインの作成や生徒・学生や教職員が交流しながら学べるより柔軟な学習環境戦略の構築が欠かせません。

「**当面**」の緊急対応としての変更や「**短期的**」対応としてスペースを再構成する際の3つのキーワード：

密集度：1平方メートルあたりの人数

規則性：家具の配置と向き

分割：パーティションなどを活用

新たな安全対策ガイドラインと組み合わせながら、これらの戦略を教職員や学習スペースにも講じることで、安心・安全の下に学校や大学を再開させることができます。これからの予測不能で刻々と変化する情勢にあって、教育現場には、より順応性の高い多種多様な学習スペースが求められます。

人との最小距離

教室や交流スペースでの人との物理的距離を最低2メートルは確保すること。机やテーブル、イスなどを外したり、家具を交換しながらスペースの密集度を低くする。

オープン空間でのグループ活動

グループでの活動にはオープンスペースを利用したり、キャスター付きホワイトボードや衝立など柔軟性の高い家具を活用して間仕切りとしても機能させる。

専用スペースの増加

共有の机を排除し、出来るだけ個人が専用で利用できるようにする。

家具の向きを変更

対面を回避するように机を再構成する。

机同士を分離

生徒・学生の机を引き離して、距離を確保する。

間仕切り機能の追加

パネルなどのパーティション、収納キャビネット、観葉植物などを追加して、なるべく既存の学習スペースを仕切る。

可動式間仕切り

学習スペースでは、ユーザー自らが自由に動かせる可動式間仕切りや専用デバイスの使用を検討する。

高さが重要

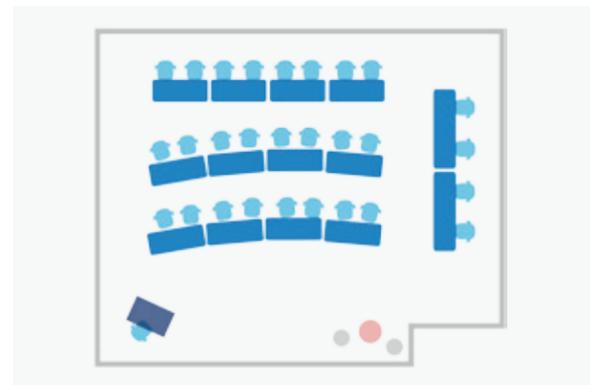
対人距離を2メートル以上確保できない場合には、机上面を出来るだけ高いパネルで囲む。

設計上の課題

コロナ以前の学習環境は、病気の蔓延を緩和するようには設計されていません。教育関係者は、新型コロナウイルスの感染拡大がもたらした「安心・安全」という新たな課題に対応するために、家具やテクノロジーを適切に選択しながら既存の学習スペースを変更、改善していかなければなりません。

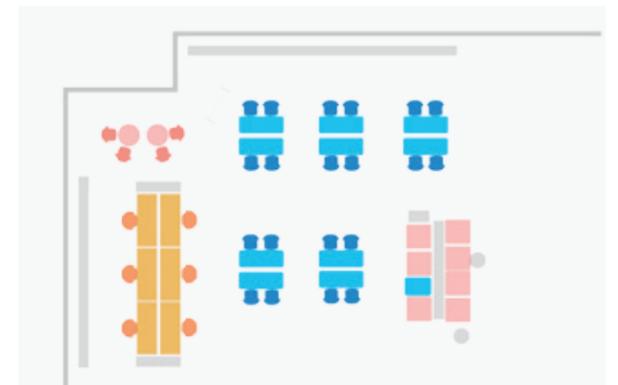
それは、スペースの密集度、規則性、分割という視点でわずかな変更を加えるだけで対処できる場合もあります。多くの場合、現スペースの既存の家具を利用しながらスペースを変更するか、または、新たな要素を多少追加することで実現可能です。

モジュールタイプの家具やビデオ会議システムを導入することで、柔軟性の高いスペースへと変換できると同時に、対人距離を確保した複数の学習形態へのニーズにも対応できます。



教室

通常、典型的な教室は、生徒数28〜32人ぐらいを収容するように設計されています。ポスト・コロナの世界では、教室での密集度を下げるとともに、将来的な対応策としてスペースの柔軟性と順応性を最大限に高めることが求められます。

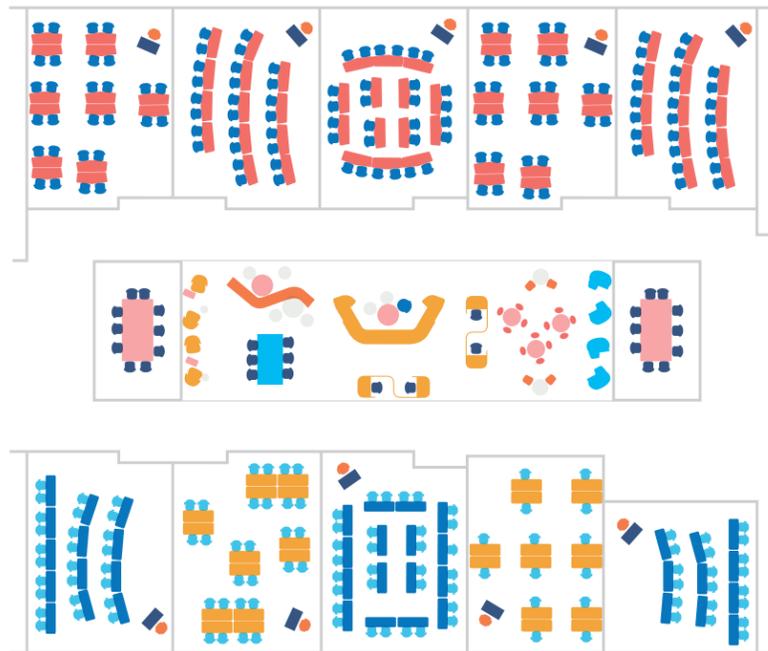


共有スペース

様々な姿勢を促す座席タイプ、例えば、机席、グループワーク用席、ソファ席など、生徒や学生に数多くの選択肢を提供することが重要になります。そして、生徒や学生の安全と心理的安心感のために、スペースの密集度を下げ、適切な対人距離を確保できる家具配置を計画しましょう。

フロアプランの考慮事項

学校や大学の再開にあたっては、空間の密集度、家具の規則的配置、分割方法を変更することがポイントになります。



変更前

変更後

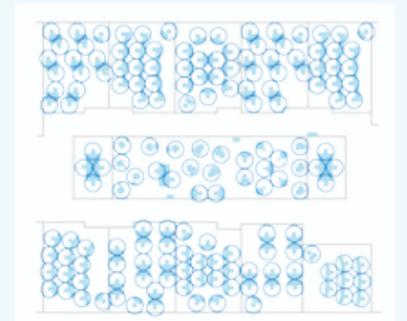
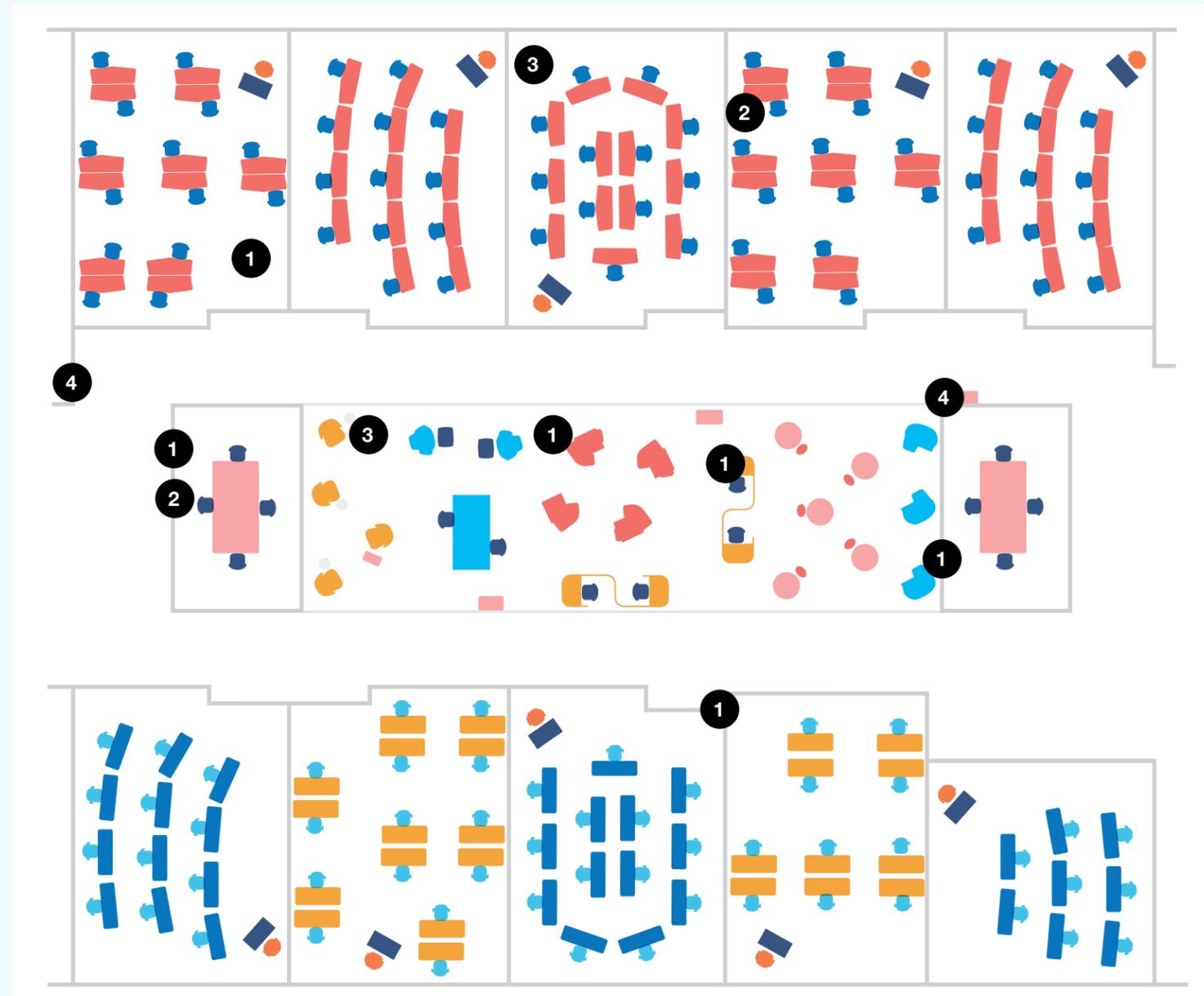
1 密集度

- 教室のイスと机を外して密集度を下げ、生徒や学生が安全に学習に集中し、対話ができるようにする。
- 共有スペースでは、モジュールタイプのイスを1人用に分割し、一部のイスを外して2メートル以上の対人距離を確保する。

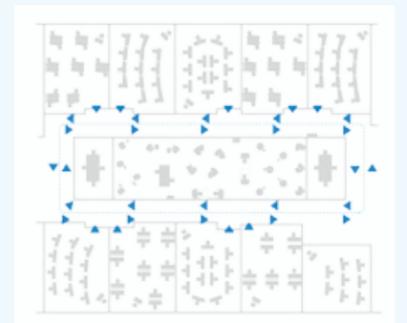
- リモートからの参加を可能にするテクノロジーを組み入れ、教室にいる生徒・学生数を減らす。
 - 教室の密集度を下げ、その余ったイスを共有スペースに配置し、オンラインでの参加ができるようにする。
- 2 規則性
- 対面着席を回避するために机の向きを変えたり、距離を確保するために机とイスの配置を調整する。

3 分割

- 個々の席での飛沫防止のために机上面にパネルを追加する。
 - 必要に応じて、可動式間仕切りを組み入れて、飛沫防止とプライバシーを確保する。
- 4 衛生
- 衛星ステーションを設置し、安全衛生プロトコルの実践を徹底させる。



物理的距離：床面の円シールで、人との2メートル推奨距離を保つよう視覚的に注意喚起する。



動線：通路での対面接触を回避するために一方通行の流れをつくる。床と壁面の視覚標識で人の方向を誘導する。

Learning, Teaching and Administrative Settings

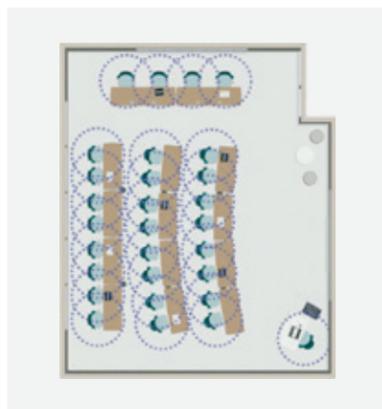
学習・指導・教職員スペースの家具・配置。まずは、ポスト・コロナ時代の学習環境において、既存の家具やスペースをどう調整、変更するかを紹介します。

教室:アクティブ・ラーニング

講義モード

教室は、パネルを追加したり、座席数を減らすことで、物理的距離（学生間の距離は2メートル）を確保し、豊富な姿勢を選択できるようにする。

変更前



変更後



教室サイズ：10.6m × 8.6m / 90.2 m²

収容人数：28（変更前）12（変更後）

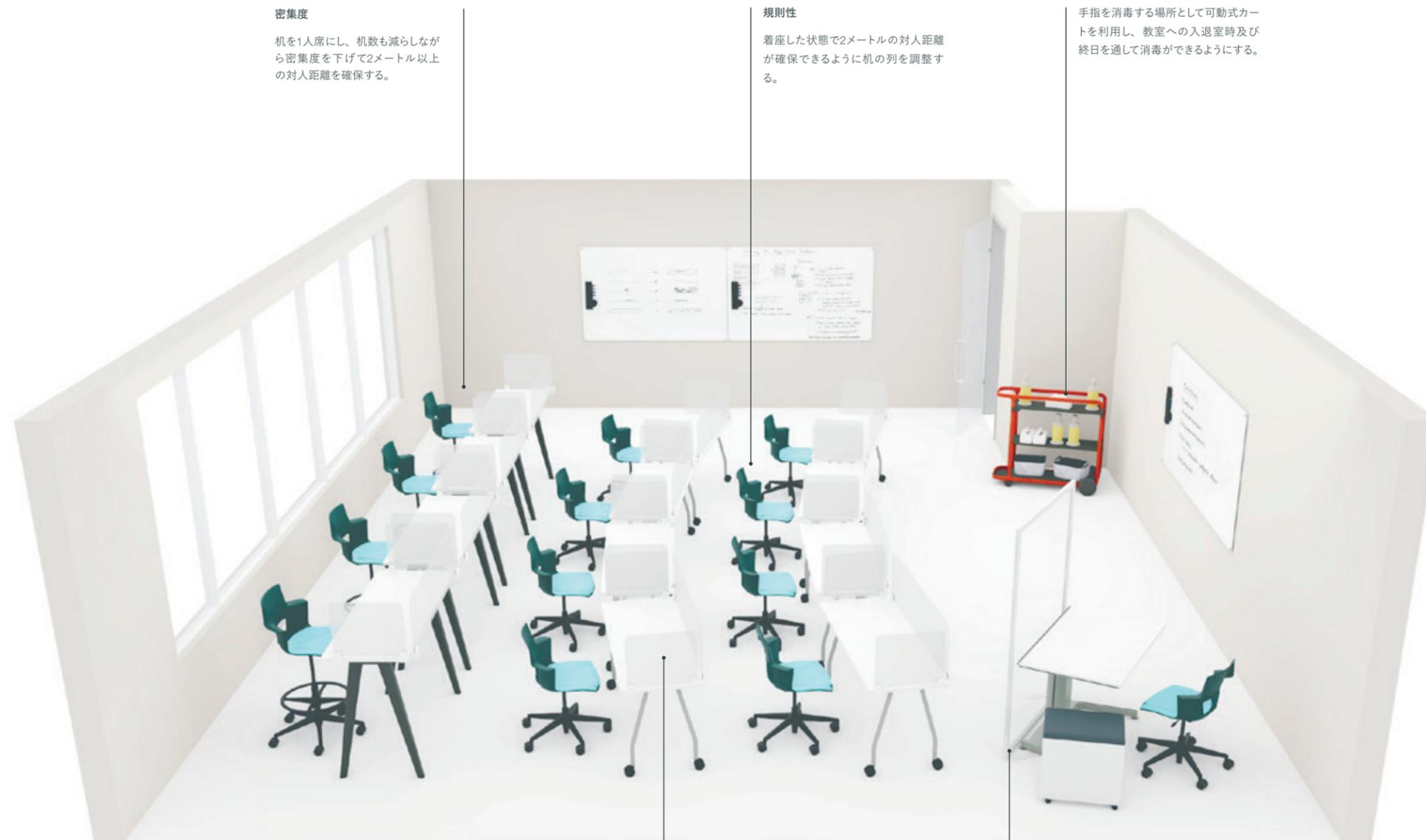
主要製品

Shortcut 5 Arms Base Stool Height（5本脚スツールチェア）

Shortcut 5 Arms Base（5本脚標準チェア）

Steelcase Flex Team Cart（カート）

透明パーティション



密集度

机を1人席にし、机数も減らしながら密集度を下げて2メートル以上の対人距離を確保する。

規則性

着座した状態で2メートルの対人距離が確保できるように机の列を調整する。

手指を消毒する場所として可動式カートを利用し、教室への入室時及び終日を通して消毒ができるようにする。

分割

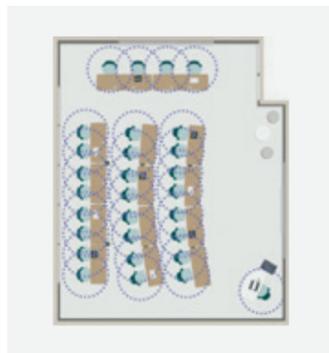
他生徒・学生や教員、黒板やホワイトボードの授業内容が見えるように、机上面の3側面を410mm高の透明パネルで囲む。キャスター付き1人机は収容人数を最大化しながら対人距離を十分に確保できる。

分割

透明の1800mm高の可動式仕間切りを教員と生徒・学生の間を設置する。キャスター付きにすることでホワイトボードを使用する際にも移動させながら飛沫感染予防ができる。

教室:アクティブ・ラーニング

変更前



変更後 (講義モード)



変更後 (グループワークモード)



教室サイズ：10.6m × 8.6m / 90.2 m²

収容人数：28 (変更前) 14 (変更後)

主要製品

Verb Rectangle Table (テーブル)

Node Seating (チェア)

Steelcase Flex Team Cart (カート)

Steelcase Roam Cart and Microsoft Surface Hub 2

Airtouch HAT (デスク)

透明パーティション

講義モード

机を可動式にすることで、その高い柔軟性で複数の学習モードをサポートし、変化する教育機関のニーズに適應できます。スペースに組み込まれたビデオ会議システムは、教室に居ない生徒や学生を考慮したリアルとオンライン両方でのブレンド学習を促進できます。



グループワークモード

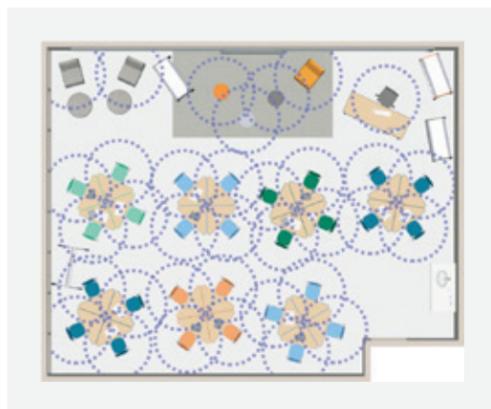
講義モードの家具配置(P22)と同じモジュール式家具やテクノロジーを導入したこの教室は、物理的距離や安全ガイドラインを厳守しながら、グループワークモードの家具配置へと容易に再構成できます。



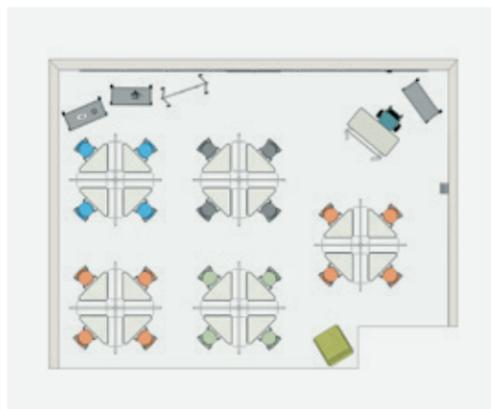
小学校の教室

各自専用の机を配置させた柔軟な学習スペースは、生徒同士が学び合いながらの学習を促すように配置されています。キャスター付きのため、その時々ニーズや安全性への懸念度合いに応じて簡単に動かしながらレイアウトを再構成できます。排除されたローテーションゾーンは、状況の緩和に伴って徐々に元に戻すことができます。

変更前



変更後



教室サイズ：10.6m × 8.6m / 90.2 m²

収容人数：28（変更前）20（変更後）

主要製品

Smith System Social Distance Screen（パーティション）

Smith System Interchange Wing Desk（デスク）

Smith System Flavors Stack Chair（チェア）

Smith System Cascade Storage（収納）



教室の近くに消毒用品を設置できる場所をつくり、入退室または終日を通して、手指の消毒がいつでもできるようにする。

密集度/規則性

机同士の間隔を広めにとることで、2メートル以上の対人距離を確保できる。自習も念頭に設計されている。

分割

毎日の教員からの配布物は、密集や接触機会を回避するためにその頻度を検討する。

分割

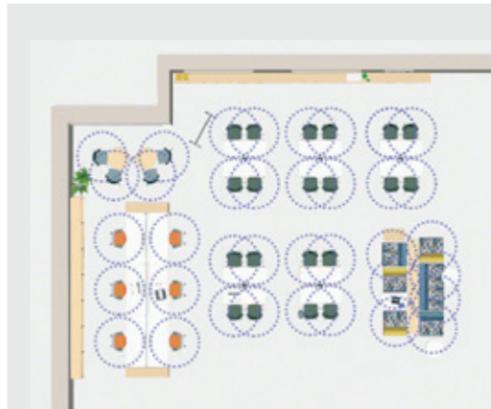
1200mm幅/1400mm高の可動式透明間仕切りを生徒同士の間に設置し、飛沫防止をすると同時に相手を見ながらのコミュニケーションも可能な環境を創出する。

可動式間仕切りと収納スペースによって、変化する将来のニーズにも順応できる環境を構築できる。

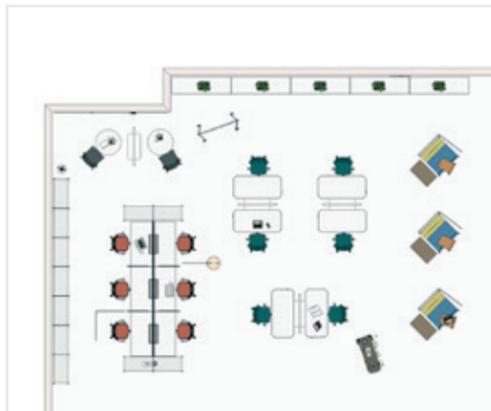
共有スペース:ライブラリー・ラーニング・コモンズ

適切な対人距離を確保した上で主要なゾーンやスペースを構築することで、学生のさまざまな学習活動（共同作業、交流、自習）の継続をサポートできます。

変更前



変更後



ライブラリーコモンズのサイズ：15.2m × 11m / 169.5 m²

収容人数：37（変更前）17（変更後）

主要製品

- Steelcase Flex Collection
- UPV Open Shelf（収納棚）
- Shortcut 5 Arms base（5本脚チェア）
- 透明パーティション



分割

机上面に600mm高の高めのパネルを追加し、飛沫防止を強化する。

密集度

共有テーブルでは、チェアを取り外したり、ずらしたりしながら、2メートルの対人距離を確保するようにする。

規則性

ソファ同士を離し、1人用のソファ席を提供する。可動式間仕切りを追加し、飛沫感染予防とプライバシーを確保する。

分割

可動式間仕切りは、対人距離を確保し、必要に応じて簡単に移動させながら飛沫感染予防とプライバシーの提供に役立つ。

分割

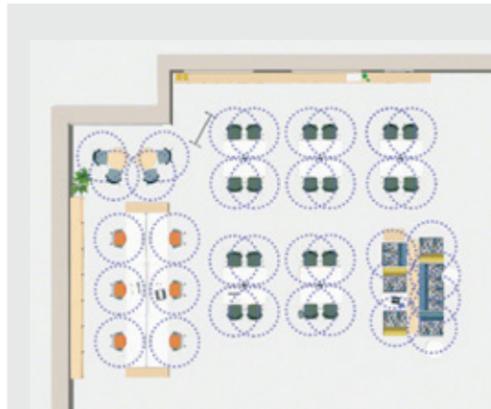
1200mm幅 x 1800mm高の透明な可動式間仕切りは、飛沫感染を予防し、必要に応じて柔軟に移動ができる。

可動式カートを利用して、消毒用品や個人用保護具を保管し、誰でもいつでも消毒ができるようにする。

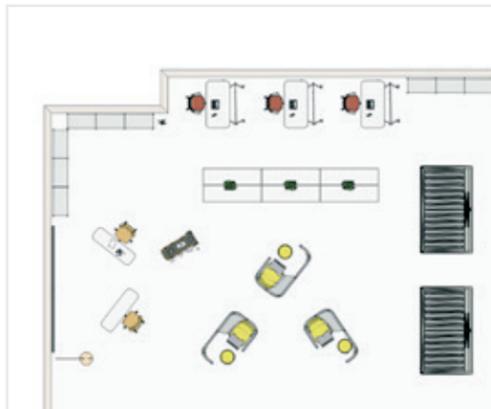
共有スペース:ライブラリー・ラーニング・コモンズ

将来のニーズを見据えて設計された高い柔軟性を特徴とするスペース。様々な家具を配置することで、対人距離、飛沫防止、作業内容に対する個々の心理的安心感や好みによって、学生は座る場所を自由にチョイスできます。家具は可動式のため、ニーズに合わせて容易にレイアウト変更が可能です。

変更前



変更後



ライブラリー・コモンズのサイズ：15.2m × 11m / 169.5 m²

収容人数：37（変更前）10（変更後）

主要製品

- UPV Open Shelf（収納棚）
- Steelcase Flex Collection（テーブル、カート等）
- Brody WorkLounge（パネル付き1人用ソファ）
- Orangebox Air3 Pod（個室スペース）



規則性

対面着席を回避するために1人用テーブルを再配置。可動式間仕切りを追加し、飛沫感染を予防しながらその移動も容易にする。物理的距離の制限が緩和された際には、テーブルを組み合わせるグループ用のコラボレーションテーブルとしても利用できる。

分割

個室ポッドは、吸音性に優れ、外部からの音を遮断しながらオンライン学習に集中できる。

分割

可動性の高い家具は、順応性の高い空間を構築できる。安全性が緩和された際には、簡単に移動させてレイアウトを再構成し、時代に即した活動をサポートできる。

分割

パネルと一体化されたソファ席は、プライバシーを確保しながら安全に快適に学習に集中できる。

自宅で: 自宅学習

自宅の予備部屋またはリビングの隅に、家族全員が誰でも利用できる学習スペースをつくりましょう。

平面図



主要製品

- Migration Height-Adjustable Desk (デスク)
- Steelcase Series 1 Chair (チェア)
- Flex Screen (パネル)
- UPV mini pedestal storage (片袖収納)

高さ調節が可能な上下昇降デスクは、さまざまな年齢層や体格に対応できる。



キャスター付きの収納キャビネットは、学習に必要な教材などの身近な収納場所としても活用できる。

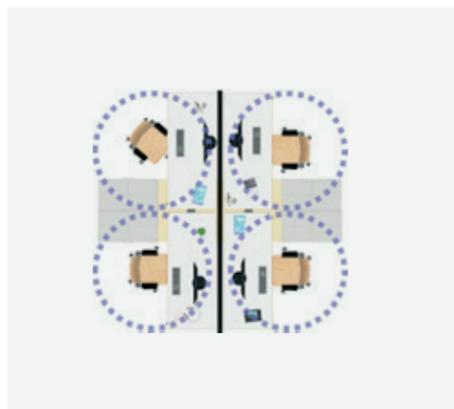
人間工学を配慮したオフィスチェアと上下昇降デスクを使用することで、姿勢を変えながら健康的に自宅学習ができる。

折りたたみ式間仕切りは、周囲との目隠しになり、ウェブ会議の際の仕切り、背景としても効果を発揮する。

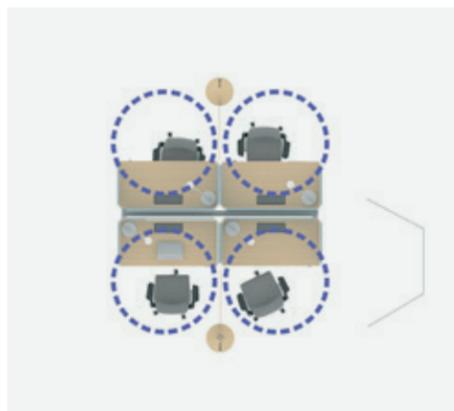
教職員スペース

教職員の自席では、業務ツールも利用しながら、感染予防のために間仕切りを組み入れましょう。簡易テーブルは、身近に必要なモノを吊るしたり、消毒液を置いたりと便利に活用できます。持ち運び容易なホワイトボードは、自席でのプレスト用としても、飛沫予防の間仕切りとしても活躍します。

変更前



変更後



主要製品

- Sarto screens (間仕切り)
- Flex screens (間仕切り)
- Gesture Chairs (チェア)

分割

飛沫対策としてSteelcase Sartoスクリーンで正面と側面を囲み、上下昇降デスクの机上面には500mm高以上のパネルを設置する。

分割

必要に応じて移動させて再配置できる実用的かつ機能的な間仕切りとして、Steelcase Flexホワイトボードと自立式テーブルを利用する。



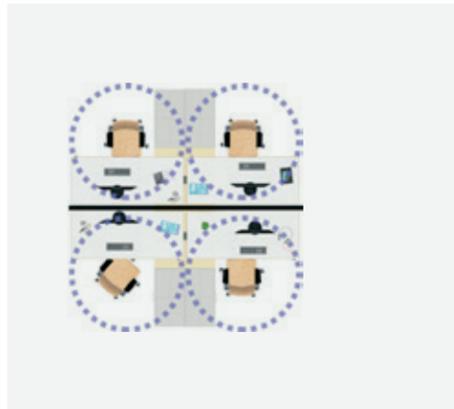
分割

チームスペースを囲むために、1800mm/1200mm高の持ち運び容易な間仕切り、Steelcase Flexスクリーンを追加する。

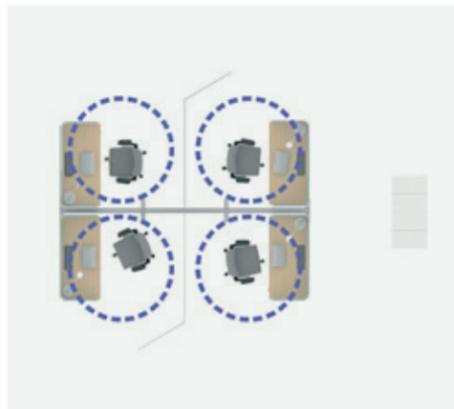
教職員スペース

教職員には、資料や私物を身近に保管できる収納を備え、人間工学を配慮したデスクを提供し、感染対策の面からも安全で外部からの邪魔を防ぐ間仕切りを設置しましょう。

変更前



変更後



主要製品

- Sarto screens (間仕切り)
- Flex screens (間仕切り)
- Gesture Chairs (チェア)

分割

飛沫対策としてSteelcase Sartoスクリーンで正面と側面を囲み、上下昇降デスクの机上面には500mm高以上のパネルを設置する。

規則性

デスクを90°回転させて、対面着席を回避する。

分割

チームスペースを囲むために、1800mm/1200mm高の持ち運び可能な間仕切り、Steelcase Flexスクリーンを追加する。



密集度

デスクの向きを変え、センタービームを追加することで一人当たりの床面積を増やす。

分割

キャビネットを間仕切りとして追加し、私物や消毒用品の保管場所としても利用する。

Safety Guidelines

安全対策ガイドライン。健康と安全への包括的アプローチにより、生徒や学生、教職員が学校や大学に復帰した際により安心、安全な学習環境を実現できるようになります。当社では、スペース設計デザイン以外にも、プロトコル、衛生と消毒、個人用保護具（PPE）の3つの主要ポイントにおいても推奨事項を設定しています。

当セクションでは、安全な学校、大学再開に向けての一般的な留意事項を網羅し、その情報は各国政府および世界保健機関による推奨事項に準拠しています。また、各国独自の方針や法律に適合しなければならない場合もあります。

このガイドラインの一部は、一般公開されているLear Corporation発行のSafe Work Playbookを転用しています。

学校・大学再開に向けての 計画と準備

パンデミック対策チーム の組成 (PRT)

PRTとは、学校・大学再開の際の人々の健康と安全に取り組むために組織横断的に組成されるパンデミック対策チームで、施設担当責任者がそのチームを率いています。

- 物理的スペース、学部や生徒/学生のプロトコル、衛生と消毒、個人用保護具 (PPE) などの各領域の責任者とそのチームを任命する。
- 学校・大学再開に向けて、安全・衛生プロトコルを策定し、責任者やチームにトレーニングを実施する。プロトコル策定に加え、その枠組みの実践と調整を可能にするための計画を着実に実行に移す。

教職員向け 新・プロトコルと 伝達手段を確立する

学校や大学での新たな行動様式への取り組みと感染予防管理のために、新たな教職員用プロトコルを策定し、広く周知、徹底させる必要があります。

プロトコル:

- 教職員や生徒・学生の学校や大学への復帰のタイミング、制限人数、頻度を検討する。日、週、月別の交代制にし、断続的にスペースを閉鎖しながら消毒作業も検討する。
- 健康チェックプロトコルを策定する。毎日、健康状態をセルフチェックする、登校の際の体温チェックでモニタリングするなど (37.5° C以上は管理担当者に連絡し、必要な措置に従う)。
- 疾病プロトコルを策定する。感染した場合には、迅速にその隔離手順に従う。学校や大学にトレーニングを受けた衛生管理担当を配置し、指定の隔離場所と明確なプロトコルを全教職員や生徒・学生に伝達し、その厳守を徹底させる。感染者の復帰に関しても同様のプロトコルを導入する必要がある。
- 学校や大学で感染者がでた場合には、教職員や生徒・学生は管理担当者にただちに連絡し、地域医療機関からの指示を待つ間は自主隔離を心がける。
- 教職員や生徒・学生が自己隔離する場合は、本人とのコミュニケーションを徹底させる。COVID-19の症状がある、検査を受けている、陽性反応がでた等いずれの場合も14日間の健康観察が求められる。学校や大学への復帰時期は、各国政府/グローバルの健康ガイドラインに準拠する。
- 給食や学食等についてもプロトコルを策定する。営業時間の延長や時間差利用を検討する。密を回避し、人との安全な距離を保つために、床面に人の流れを誘導する視覚的サインを導入する。

伝達手段:

- 教職員や生徒・学生が安全に学校や大学に復帰するにあたり、安全対策トレーニングを文書、口頭、オンライン上にて実施する。
- 教職員と生徒・学生は、新たな規則とプロトコルと一緒に確認する。感染の兆候と症状、自己健康チェック手順、モニタリング、隔離と自宅待機の対応手順を確認する。
- 初日にトレーニングとオリエンテーションを実施し、人との物理的距離や衛生対策などの新たな手順を徹底させる。
- 学校や大学内の目にする場所に、衛生関連情報を提示したバナーや標識等を設置する。健康チェックポイント、隔離エリア、来訪者への確認事項、衛生・消毒ガイドライン、物理的距離などの情報を教職員や生徒・学生に広く認知させる。
- イン트라ネット、電子メール、ショートメール、バナー等の学内コミュニケーションツールを活用し、新たなプロトコルの周知を図る。人との距離や衛生マナー、マスクなどの個人用保護具に関する基本的対策を徹底的に認知させる。
- ウイルス蔓延の予防方法がアップデートされ、プロトコルが変更される場合は、ガイドラインを更新し、適宜に学内に伝達、周知させる。

衛生・消毒 プロトコルを 策定、強化する

学校や大学の再開に向けて、徹底した清掃と衛生行動計画を確立し、準備を進めておく。

- 学校や大学の再開に向け、衛生環境を整備する。教室や職員スペース、健康、安全の各ガイドラインに基づいて洗浄と消毒処理を行う。また、教職員や生徒・学生に陽性反応がでた場合には、徹底した消毒作業が常時できるように準備をする。
- 徹底した清掃・消毒には、高度なテクノロジー内蔵機材による広範囲にわたる作業と、専門技術をもったプロが管理する徹底した特殊作業がある。
- 消毒作業は、各施設の状況で判断する。トイレ、カフェテリア、ロッカー、手摺り、自動販売機などの一般エリア、PC画面やキーボード、エレベーターのボタン、照明スイッチ、その他手指がよく触れる場所を常に清潔に保つようにする。
- 清掃・消毒の方法や頻度に関するプロトコルを策定し、PRTチームが継続的に監督する。
- 消毒液が不足しないよう在庫をしっかりと管理する。学内に設置される石鹸、手指の消毒ジェルやスプレー、ペーパータオルやティッシュなどの衛生用品は、最低でも1ヶ月分の在庫を常時確保する。
- 個人の机や交流スペースの利用前後のセルフクリーニングを教職員や生徒・学生に徹底させる。「衛生ステーション」を設置し、手指の消毒液などの衛生用品を入手できるようにし、新たなクリーニングガイドラインを定着させる。
- 可能な限りハンズフリー操作の実現を目指す。ドアを開けたままにするかドア開閉センサー、また、自動点灯照明、音声起動などの非接触エクスペリエンスを組み込むことを検討する。

個人用保護具 (PPE) のガイドラインを 策定する

マスクなどの個人用保護具 (PPE) の正しい着脱方法などの指導やトレーニングの実施、また、その周知に向けての断続的な発信を徹底させる。

- PPEの使用ガイドラインを策定する。医療担当職員、監督者、清掃スタッフなどの対策チームは、マスク、手袋、メガネ等の着用を義務化する。ガイドラインに基づき、最低でも1ヶ月分の在庫を継続的に確保する。
- COVID-19管理担当者を任命する。PPEの適切な使用法など、教職員や生徒・学生をトレーニングし、PPEポリシーの遵守を徹底させるよう監督する。
- 教職員や生徒・学生に対して、特に対面での対話にはマスクの義務化を周知させる。マスクの提供と着脱方法に関する指導も行う。

これらのガイドラインは、現段階での安全対策情報に基づいて策定されています。さらなる科学的データやウイルスの解明、今後のパンデミック対策によって改訂される場合があります。

素材：消毒・洗浄

接触感染を防ぐために、手指が触れる家具の表面の消毒・洗浄はこれまで以上に重要になります。家具の外観を損なうことなく、健康的かつ除菌可能な洗練された学習環境を実現するために素材を慎重に選択することは、当社の重要な意志決定のひとつです。

当社では、米国疾病対策センター (CDC) の基準に準拠した「クリーニング・ガイドライン」を策定し、製品の仕上げ・張り地マニュアルの一部に組み入れています。

メラミン化粧板、塗装/メッキ金属、その他の硬い表面には、当社が製品でテスト済みの一般的な市販製品をご利用ください。

[https://www.steelcase.com/
cleaning-steelcase-products/](https://www.steelcase.com/cleaning-steelcase-products/)

一部の高性能な張り地は、耐変色性があるので漂白剤で洗浄できます。米国疾病対策センター (CDC) は、表面消毒には希釈した漂白剤を推奨しており、より安全に利用するには、1:10に薄めた漂白剤で消毒してください。

イスやパネルなどの柔らかな張り地は、メーカー推奨事項に従って消毒、洗浄してください。

詳細等は、日本スチールケース株式会社、または正規販売代理店までお問い合わせください。

当社のコミットメント

今後、学校や大学の本格的再開に向けて、生徒や学生、教職員、教育現場のニーズは大きく進化していきます。当社では、引き続き、先端の教育機関や専門家とのグローバルなネットワークと緊密に連携しながら、観察を継続し、得られた教訓や知見を公開、共有するよう努めてまいります。

steelcase.com/jp-edu



[instagram.com/steelcase](https://www.instagram.com/steelcase)



[pinterest.com/steelcase](https://www.pinterest.com/steelcase)



[facebook.com/SteelcaseEducation](https://www.facebook.com/SteelcaseEducation)



twitter.com/SteelcaseEDU



[linkedin.com/company/steelcase](https://www.linkedin.com/company/steelcase)

日本スチールケース株式会社

東京都港区南麻布5-2-32 興和広尾ビル4F TEL: 03-3448-9611 FAX: 03-3448-9617 www.steelcase.jp

©2020 Steelcase Inc. All rights reserved. 記載されているトレードマークはSteelcase Incが所有しています。
全てのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。